

■ 摂津市の洪水時に対応した避難のありかたについて

1. 洪水を想定した現状と課題

<地形>

① 地形特性

- ・淀川、安威川等一級河川が市域を縦貫。
- ・海拔が低く、平地が広がる。

<浸水の状況>

② 安威川洪水…両岸で浸水が広がる

- ・市外で破堤しても1時間以内で市内の浸水が始まる。
- ・中央環状線付近の浸水が早く、烏飼東部は少し遅れる。
- ・安威川南部は、ほぼ全域が浸水。概ね3日後には退く。

③ 淀川洪水…安威川南部では浸水継続時間2週間以上

- ・安威川南部での浸水が2週間以上継続する。

④ 洪水予測…3H先の水位予測が可能

- ・大阪府洪水予測情報では3時間先の水位予測が可能。
- ・避難判断水位（避難準備・高齢者避難開始）から氾濫危険水位（避難勧告）まで1時間程度。

<避難対象者>

⑤ 居住者の特性…市内に災害時要援護者が点在

- ・災害時要援護者が全市に点在。
- ・身体障害者の避難時の課題は多種多様。

⑥ 居住住戸の特性…安威川南部に戸建・長屋が多い

- ・浸水時の課題が多い安威川南部では戸建て、長屋建てが多く、中高層住宅が少ない。

<避難所>

⑦ 避難者数と避難場所の想定…圧倒的に不足

- ・人口 86,743人
- ・要避難者数 61,900人 うち要援護者等約3,600人
- ・市内避難先 5,496人 うち避難所 640人
緊急避難場所 4,856人

⑧ 避難場所の特性…多くが浸水エリアに立地

- ・緊急避難場所は、浸水エリアにあり、全ての床が水没する施設もある。

<避難経路>

⑨ 徒歩・モノレール避難…長時間を要する

- ・モノレール駅まで1km以上のエリアも多く、バス等の交通手段がさらに必要（特に烏飼東部、別府西部）。
- ・モノレール避難に長時間を要する。

⑩ 自動車避難…幹線道路の渋滞がボトルネック

- ・中央環状線、大阪高槻線は慢性的に渋滞。
- ・幹線道路の慢性的な渋滞がボトルネック。

<救助能力>

- ・消防局ボート3艇（想定救助者数 1日216人程度）
- ・ヘリコプターは大阪府警、自衛隊等

<これまでの取り組み>

- ・地域版ハザードマップの作成
- ・まかせて会員・お願い会員
- ・市内事業所との避難所協定を締結
- ・広域避難先として万博記念公園との交渉

2. 対応

<地形>

- 公共施設や面整備等、様々な機会に高台地の造成。

<避難場所>

○既存緊急避難場所の充実

- ・長距離避難しにくい高齢者等を想定し、身近な地域での緊急避難場所の確保。
- ・浸水時間が長期化しても避難生活を送りやすくなる備蓄や設備の充実。

○市内で充実したケアが可能な拠点の確保

- ・通常の緊急避難場所では避難や生活が困難な身体障害者等の受入れ体制の整備。
- ・既存介護施設との連携。充実したケアが可能な新たな拠点の確保。
- ・搬送・受け入れ態勢等運用方法の検討。

○市域外での安全安心な避難所の確保

- ・自動車避難者が集まれる場所の確保。
- ・徒歩避難者が安全安心できる避難所の確保。
- ・安全な避難ルート確保。

<避難誘導・経路>

○災害時要援護者の避難支援

- ・市内に点在する災害時要援護者の避難支援の体制づくり、交通手段の確保。

○大人数のスムーズな避難経路の確保

- ・道路混雑の改善、大雨想定時の道路交通の利用制限等、道路交通対策。
- ・大阪モノレールの避難時の増便など。

○早めの避難が必要であるが、空振りの恐れが高くなる

- ・市民への周知。
- ・地域での避難訓練。

<孤立した避難者の救助>

○被災後の速やかな活動拠点の確保

○浸水後の救出体制、装備の充実

3. 避難の考え方

『自助・共助・公助による備え → 「オールせつつ」の避難』

対象者	健康で元気な高齢者、ファミリー、若者などの市民	要介護度が高くないが移動に制限がある高齢者など※	身体障害者や要介護度の高い高齢者など※※
自助・共助・公助のバランス	自助の割合が大きい	共助の割合が大きい	自助 } 共助 } 三助の連携 公助 }
避難行動 避難生活	自力で避難し、地域内の助け合いにも協力する。	地域での助け合いによる支援を受け避難する。	自助・共助・公助の三助の連携により避難する。
避難先	地域内には確保できないため、広域避難により安全な場所で確保。	地域にこだわらず浸水しない安全な場所に広域避難。※	避難先は充実したケアが可能な拠点。
公共の役割	市域外を含めた広域での避難の情報提供。	地域での助け合いの支援や避難所の充実。	充実したケアが可能な拠点の確保。

※浸水する地域内にある避難場所は、浸水後数日間から数週間、浸水が継続し、避難生活に著しい支障がある

4. 摂津市の洪水時に対応した避難の取り組み

(1) 広域避難に向けた意識づくり

○水害リスクの説明

- ・我が家、地域の想定浸水深、浸水継続時間を知る
- ・「逃げる」意識の醸成

○避難における地域での助け合い（共助）の意識の醸成

- ・避難所にこだわらず、市域内外の浸水の恐れのない地域への避難
- ・自動車や公共交通を利用した避難を想定

○世帯ごとに浸水の恐れのない地域の避難先を確保

(2) 「安全な場所への避難」に向けての仕組みづくり

○高台の整備

- ・千里丘周辺など水害が発生しても浸水しない安全な場所での拠点を確保
- ・復旧活動拠点の確保（河川防災ステーションの整備など）

○災害時要援護者の避難場所確保

- ・充実したケアが可能な拠点を安威川の南北に確保（河川防災ステーションを要援護者の緊急避難場所として摂津市地域防災計画に追記予定）

○広域避難場所の確保

(3) 逃げ遅れた場合の命を守る行動

○緊急避難場所の設備の充実、拡充

- ・身近な緊急避難場所の整備、備蓄品の拡充

○民間協定の推進

- ・民間事業所等との協定による地域内での新たな避難場所の確保

○身近な背の高い建物への避難

(4) 浸水地域内の残留者を救済

○浸水により孤立化した緊急避難場所等からの救助

- ・ボート、ヘリの確保に向けた協定等の取り組み

○排水能力の向上

- ・浸水継続時間の短縮をめざした下水道整備、排水ポンプ確保に向けた協定等の取り組み

